

## 令和5年度 加賀屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	141	58	44	36	11.0	18.3	11.4
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

令和5年度 加賀屋中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞全国との比較において平均正答率では、58%となり11.8ポイント下回った。令和4年度の調査では6ポイント下回っていたので、大きく下回る結果となった。「書くこと」領域において、47.1%となり16.1ポイント下回った。こちらも令和4年度の国語で4ポイント下回っていたので大きく下回る結果となった。全国との比較において平均無回答率では、11.0%となり、全国平均が4.6%であるので6.4ポイント下回った。また、令和4年度国語の6.0ポイントより5.0ポイント増加した。

＜数学＞全国との比較において平均正答率では、44%となり、7ポイント下回った。令和4年度の数学で8.4ポイント下回った数値よりは1.4ポイント上回る結果となった。「関数」領域においては、41.8%となり9.4ポイント下回った。令和4年度の数学で4.2ポイント下回っていたので、大きく下回る結果となった。全国との比較において平均無回答率では、18.3%となり、全国平均が9.6%であるので8.7ポイント下回った。また、令和4年度数学の3.4ポイントより5.3ポイント増加した。

＜英語＞全国との比較において平均正答率では、36%となり9.6ポイント下回った。令和4年度の調査では8.3ポイント下回っていたので、さらに1.3ポイント下回る結果となった。特に、「読むこと」の領域において、41.1%となり、全国平均で51.2%であるので10.1%下回った。

落ち着いた学校環境を維持するとともに教員の教材作成の工夫、授業力向上を図る研究授業の実施やICT機器を活用した授業改善などにより生徒が興味関心をもてるよう取り組んできた。国語・数学においては「知識・技能」が、全国平均に近づいており少しずつではあるが成果も出てきている。一方、「思考・判断・表現」については全国平均との差が10ポイント以上あり、主体的、対話的に学ぶ授業に力を入れていく必要がある。英語においては全く逆の結果で、「知識・技能」において全国平均との差が10ポイント以上あり、「思考・判断・表現」については全国平均に近づいている。国語・数学においては協同的学習により、思考力や表現力をみがき、英語においては基礎・基本の徹底を図っていく必要がある。

【今後に向けて】

○子どもたちが安心して学習できる環境を維持するため、あいさつ運動や生活指導強化週間を継続して実施するとともに規範意識・道徳心を高める取組を継続して実施していく。

○習熟度別少人数授業やT・Tの授業を活用した個に応じたきめ細かな指導、テスト前の放課後学習や長期休業中の学習会等を通して、個々の生徒の基礎・基本の学習力を高めていく。

○各教科で教材作成の工夫、授業力向上を図る研究授業・協議の実施、ICT機器を活用した授業を更に進め、生徒が授業に意欲的に取り組むことができ、主体的・対話的に学ぶことができるように取り組んでいく。

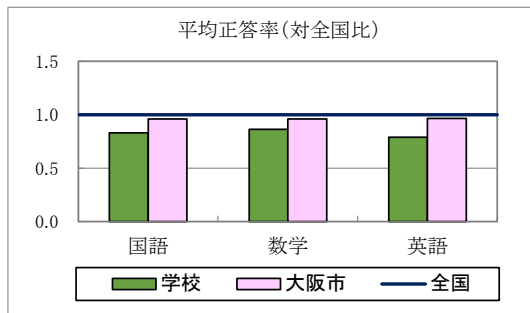
○生徒質問紙における「家で計画を立てて勉強していますか」の項目において「全くしていない生徒」と回答している生徒の割合が全国平均12.9のところ25.7%と大きく下回っているため、生徒が自主的に家庭学習を行える取組の工夫を継続していかなければならない。

令和5年度 加賀屋中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

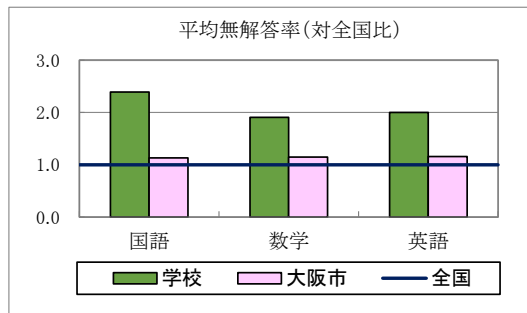
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	58	44	36
大阪市	67	49	44
全国	69.8	51.0	45.6

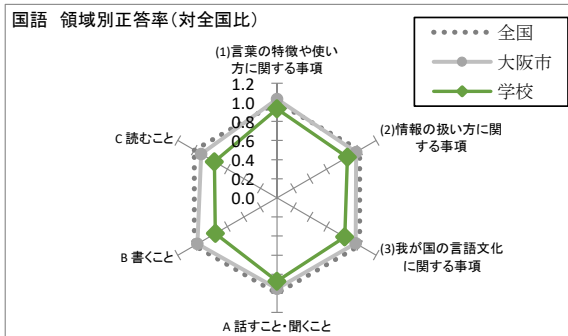
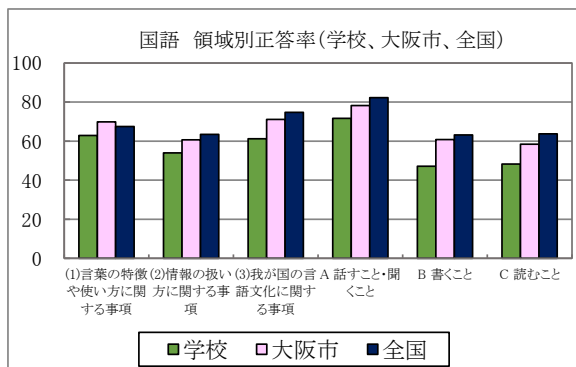


	平均無解答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	11.0	18.3	11.4
大阪市	5.2	11.0	6.6
全国	4.6	9.6	5.7



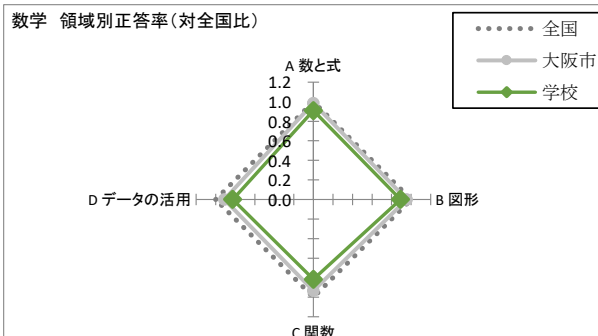
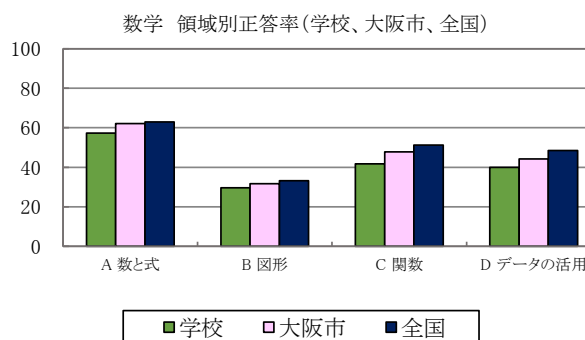
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	62.9	69.8	67.5
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	54.0	60.7	63.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	3	61.2	71.1	74.7
A 話すこと・聞くこと	3	71.7	78.2	82.2
B 書くこと	2	47.1	60.8	63.2
C 読むこと	4	48.2	58.5	63.7



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	57.3	62.1	63.0
B 図形	3	29.6	31.7	33.2
C 関数	4	41.8	47.8	51.2
D データの活用	3	40.0	44.2	48.5



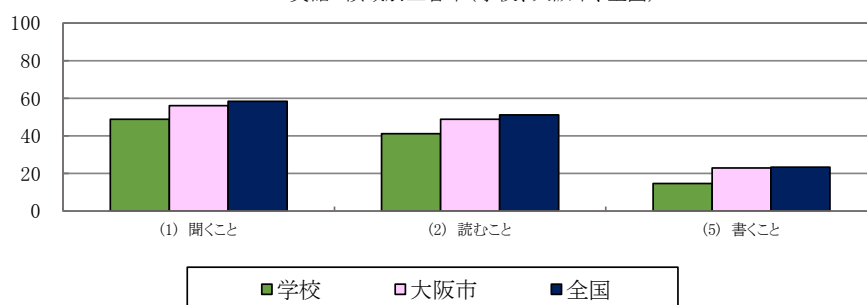
令和5年度 加賀屋中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

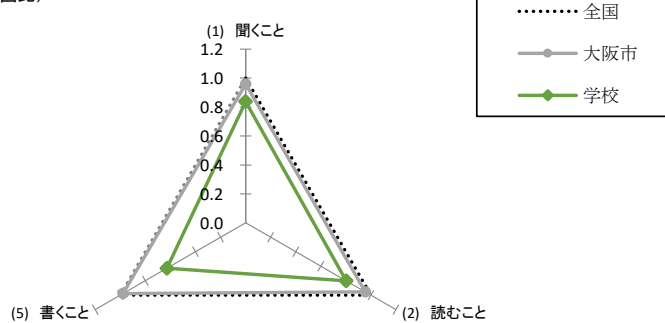
【英 語】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1) 聞くこと	6	48.9	56.0	58.4
(2) 読むこと	6	41.1	48.9	51.2
(3) 話すこと[やり取り]	0			
(4) 話すこと[発表]	0			
(5) 書くこと	5	14.7	22.9	23.4

英語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



英語 領域別正答率(対全国比)



# 令和5年度 加賀屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 生徒質問紙より

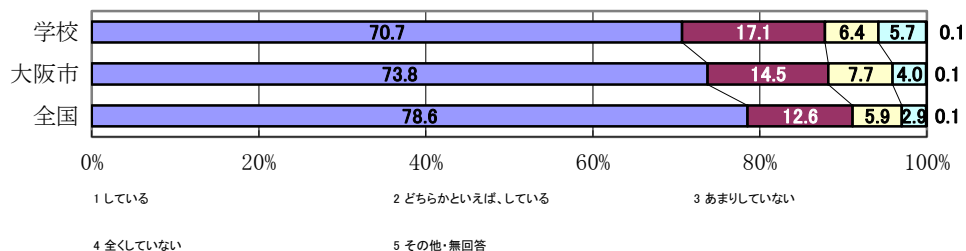
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

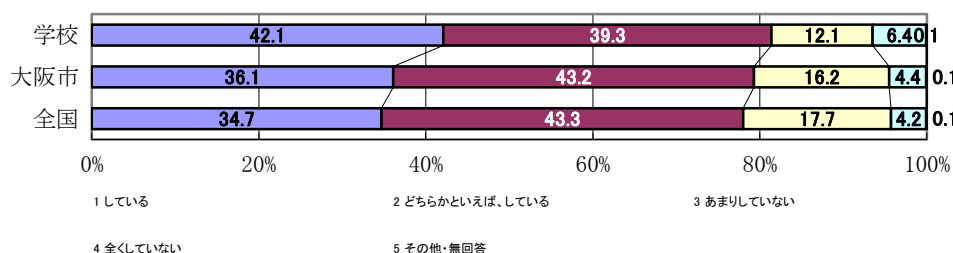
1

朝食を毎日食べている



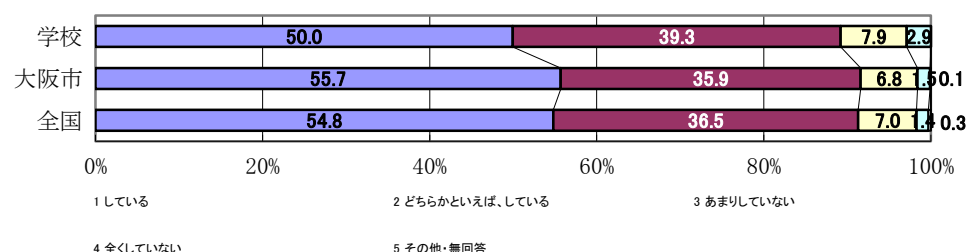
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



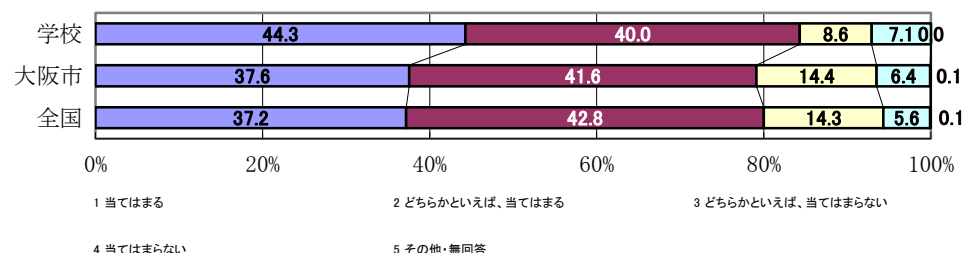
3

毎日、同じくらいの時刻に起きている



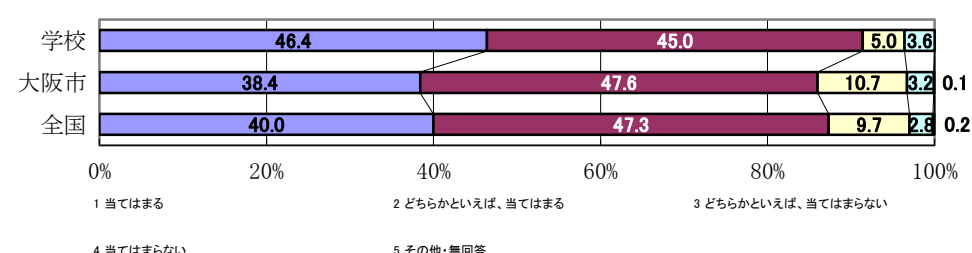
4

自分には、よいところがあると思う



5

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



# 令和5年度 加賀屋中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

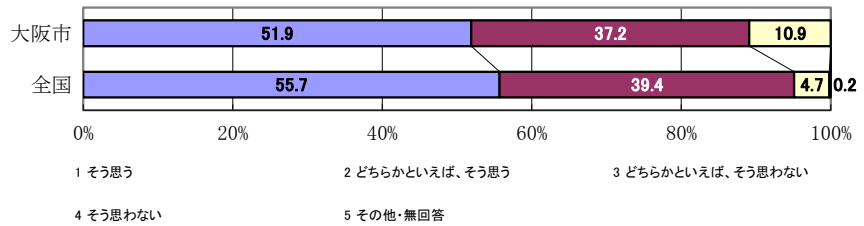
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

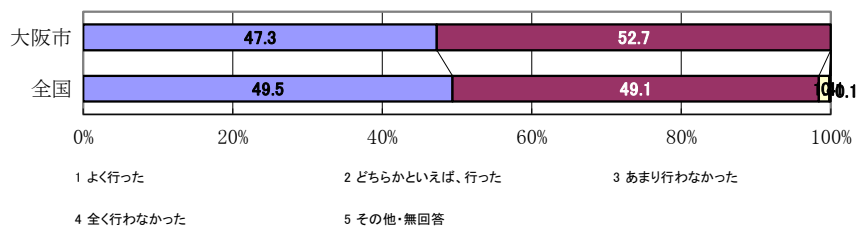
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



11

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

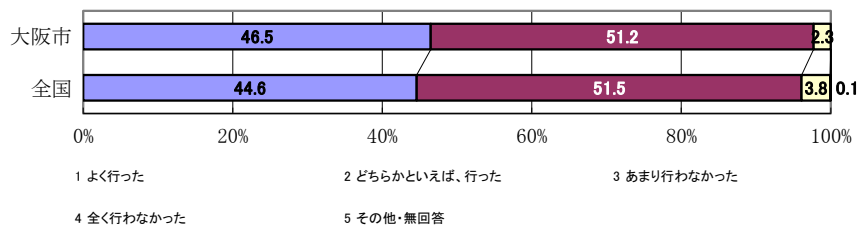
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



12

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

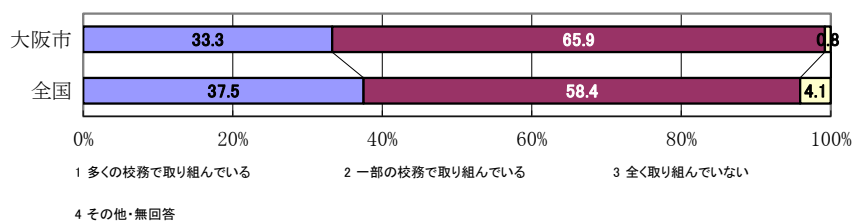
学校 「よく行った」を選択



17

ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化(クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等)に取り組んでいますか

学校 「一部の校務で取り組んでいる」を選択



28

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択

